京都大学教育研究振興財団助成事業
成　果　報　告　書

2023　年　7 月　26　日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長　藤　　洋 作　様

所属部局・研究科　　人間・環境学研究科

職 名・学 年　　博士後期課程3年

氏　　名　　福山 伊吹

助成の種類	**令和５年度　・　国際研究集会発表助成**		
研究集会名	魚類学者・爬虫両生類学者合同会議2023年大会		
発表形式	□ 招待　・　■ 口頭　・　□ ポスター　・　□ その他(		
発表題目	Biogeography and body size evolution inferred from mitogenomic phylogeny of *Kalophrynus* (Amphibia: Anura: Microhylidae) in Southeast Asia		
開催場所	アメリカ合衆国ヴァージニア州ノーフォーク		
渡航期間	2023年　6月　30日　～　2023年　7月　19日		
成果の概要	**タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版１枚程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料　■ 無　□ 有(　　)**		
会計報告	交付を受けた助成金額	300,000 円	
	使用した助成金額	300,000 円	
	返納すべき助成金額	0 円	
	助成金の使途内訳（差し支えなければ要した経費総額をご記入ください）	費目	金額（円）
		航空運賃	275,160
		宿泊費	120,627
		滞在費	150,000
		学会参加費	28,911
		その他	
		以上に助成金を充当	
当財団の助成について	（今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。） 円安と航空運賃の高騰が進む中で、海外の学会への参加のハードルが高くなる中、貴財団の助成によって国際学会への参加と発表を行うことができた。物価も日本と比べて高く、滞在費も嵩んだためこちらの助成金でそれをある程度カバーできたのが非常に助かった。今後もこのような形の助成を是非続けてほしい。		

成果の概要/福山伊吹

１．国際会議について

魚類学者・爬虫両生類学者合同会議 2023 年大会（JMIH 2023: Joint Meeting of Ichthyologist and Herpetologist 2023）は、2023 年 7 月 12 日から 16 日にかけてアメリカ合衆国ヴァージニア州ノーフォークで開催された。

本学会議は毎年行われているものでは世界で最も大きい爬虫両生類学者の集まりの一つであり、研究者の国際的な学術交流を目的としたものである。2008 年から毎年アメリカの都市で開催され、魚類学と爬虫両生類学に関する様々な分野の研究者による研究発表が行われている。口頭発表、ポスター発表を合わせて 500 以上の演題があり、それらが大きく魚類学と爬虫両生類学に分けられ、それがさらに保全、形態学、進化学、生態学、生理学、系統分類学といったセッションに分けられていた。また、学生向けのプラグラムやワークショップなども多くあり、報告者のような 1 人で遠方から来た学生にも他の研究者や学生と交流を図りやすくする配慮が見られた。アメリカを中心に多くの国から参加者が集い、学会期間を通して、質疑応答の時間やコーヒータイムなどで活発な議論が交わされていた。

２．参加の成果

報告者は「Systematics & Evolution and General Herpetology」というセッションにおいて、「Biogeography and body size evolution inferred from mitogenomic phylogeny of *Kalophrynus* (Amphibia: Anura: Microhylidae) in Southeast Asia」という題で、東南アジアのカエル類の系統地理と進化に関する 15 分間の口頭発表を行った。無事に時間内に発表を終え、参加者からの二つの質問にも落ち着いて答えることができた。報告者は初日の全体で最初の発表だったことや、アジアからの参加者が少なかったこともあって、多くの研究者の印象に残ったようで、発表後に何度も他の参加者から声をかけられた。

懇親会や学会の空き時間には、報告者と同じく東南アジア地域の爬虫両生類研究を行っている Justin Bernstein 博士や Justin Lee 氏と議論を行い、有益な情報交換ができた。また、ヴィラノヴァ大学の Aaron Bauer 博士には、報告者の研究に関して有益なアドバイスをいただいた他、さまざまな研究者を紹介していただき大変な世話になった。今回新たに知り合った研究者とは既に共同研究の準備も進めており、人脈を広げる意味でも研究を進展させるという意味でも大変意義深い大会参加となった。

貴財団の支援により、今回の学会に参加できたことを心よりお礼申し上げたい。